

(1) 本時のねらい

【5年生】詩を味わおう 教材名『晴間』『海雀』『雪』（3/5時）

「山の昼」の繰り返しや文語のリズムを感じながら音読したり、詩の内容を音や明るさを表す表現に着目して話し合ったりすることで詩の情景を想像しながら読むことができる。

【6年生】言葉のひびきを味わおう 教材名『短歌・俳句の世界』（3/5時）

五七五七七の短歌のリズムを楽しみながら音読したり、好きな短歌の好きなところを発表し合ったりすることで、選んだ短歌を味わうことができる。

(2) 展開案

過程	五年生の学習活動	評価について	教師の指導・援助	六年生の学習活動	評価について
導入	<p>○本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「晴間」を音読し、情景を読み取ろう。</div> <p>○「晴間」を音読する。</p> <p>○詩「晴間」の情景について話し合う。</p> <p>○1連の情景について話し合い音読する。</p> <p>・音は「遠雷」だから遠くでゴロゴロという音が聞こえてくる。</p> <p>・明るさは「八月の昼」で夏の昼だから明るいし、雨が降っているが「雨そそぎ」でまだそんなに強く降っていないから、まだ明るい。</p> <p>○2・3連の情景について、自分の考えをノートに書き、音や明るさについて話し合い、音読する。</p> <p>2連</p> <p>・「うちまじり」だから、雨と雷の音が入り乱れている感じがする。</p> <p>・「草は鳴る」だから、かなり強く降っているから音も大きいし、かなり薄暗い</p> <p>3連</p> <p>・「空青み」「日は照りぬ一」で、雷雨がやみ明るくなってきた。</p> <p>・「静かなる」で、雷雨はやんだ様子がわかる。</p> <p>○「晴間」の情景を思い浮かべながら音読する。</p> <p>○音読したり友だちと話し合ったりして感じた詩の感想を書き、発表する。</p> <p>「最初に読んだときは・・・だったが、音読してみても友だちと話し合ってみても・・・ことがわかった。」</p> <p>○次の評価の観点で自己評価をし、次時の課題を確認する。</p> <p>A…音や明るさの視点で詩の情景が想像できた。</p> <p>B…情景がなんとなくわかった。</p> <p>C…情景が想像できなかった</p>	<p>丁寧に課題が書けているか評価する。</p> <p>・ノート</p> <p>詩の表現に基づいて、音や明るさの視点で詩の情景を想像して発言しているかどうか評価する。</p> <p>・以下の言葉が含まれる発言</p> <p>1連 「遠雷」「八月の昼」「雨そそぎ」</p> <p>2連 「うちまじり」「草は鳴る」</p> <p>3連 「空青み」「日は照りぬ一」「静かなる」</p> <p>「山の昼」を繰り返しと文語を含んだ一行五音から生じるリズムや言葉の意味を感じながら音読しているか評価する</p> <p>・観察（音読）</p> <p>話し合われたことで、自分の考えがどう変わったかがノートに書けているか評価する。</p> <p>・ノート</p> <p>・発表</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">音読したり音や明るさを表す表現に着目したりして詩の情景が想像できた</div>	<p>← 学習リーダーに本時の課題を打ち合わせしておく。 <研究内容3></p> <p>← 本時の学習活動を板書しておく <研究内容3></p> <p>← 五年生の話し合いに比重を置きながら指導する。話し合う手順を指示する。六年生への活動の指示をはっきりさせる。 <研究内容1></p> <p>← 相手を見て話したり聞いたりしている姿を価値づける。 <研究内容3></p> <p>← 表現に基づいて読みとっている児童の姿の良さを価値付ける。</p> <p>← 詩の言葉の響きや適正さを味わわせるために音読させる。 <研究内容2></p> <p>← 六年生の話し合いに比重を置きながら指導する。話し合う手順を指示する。五年生への活動の指示をはっきりさせる。 <研究内容1></p> <p>← 文語の調子や短歌の五七五七七のリズムを味わわせるために音読させる。 <研究内容2></p> <p>← 話し合われたことで情景をより鮮明に想像できたという感想を発表している児童の姿の良さを価値付ける。</p> <p>← 自己評価がBやCの児童には授業後個別に指導する。また、表現に着目する力の弱い実態があれば次の活動に生かす。 <研究内容1></p>	<p>○本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">好きな短歌を味わおう。</div> <p>○P35にある四首の短歌を音読する。</p> <p>○P35にある四首の短歌でわからないところを話し合う。</p> <p>○選んだ好きな短歌について好きな理由や感じたことをノートにまとめる。</p> <p>○選んだ短歌について、好きな理由や感じたことなどを発表し合う。</p> <p>与謝野晶子 「夏のかぜ」「若馬」「耳ふかれけり」 初夏の訪れを馬の耳で感じる感性のよさ</p> <p>若山牧水 「白鳥」「空の青」「海のあを」 孤独感を色のコントラストで表現</p> <p>芥藤茂吉 「一目見ん一目見んとぞ」 母に対する愛</p> <p>木下利玄 「子供」「蜜柑」「冬」 「子供」「蜜柑」「冬」連想のおもしろさ</p> <p>○文語の調子や五七五七七のリズムに関心をもって音読する。</p> <p>○音読したり友だちと話し合ったりして感じた短歌の感想を書き、発表する。</p> <p>「最初に読んだときは・・・だったが、音読してみても友だちと話し合ってみても・・・ことがわかった。」</p> <p>○次の評価の観点で自己評価をし、次時の課題を確認する。</p> <p>A…短歌のリズムを楽しみ表現のよさがわかった</p> <p>B…音読か表現のよさ</p> <p>C…どちらも不十分</p>	<p>丁寧に課題が書けているか評価する。</p> <p>・ノート</p> <p>五七五七七の短歌のリズムで音読できたか評価する。</p> <p>・音読</p> <p>選んだ短歌について、その理由が表現と結びつけて自分なりに鑑賞しているか評価する。</p> <p>・発言</p> <p>五七五七七の短歌のリズムや言葉の響きや意味を感じながら読んでいるか評価する。</p> <p>・音読</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">五七五七七の短歌のリズムを楽しみ、自分で選んだ短歌の表現のよさがわかった</div>
展開					
終末					